

「励広台1号」の株枯病抵抗性解明に向けて

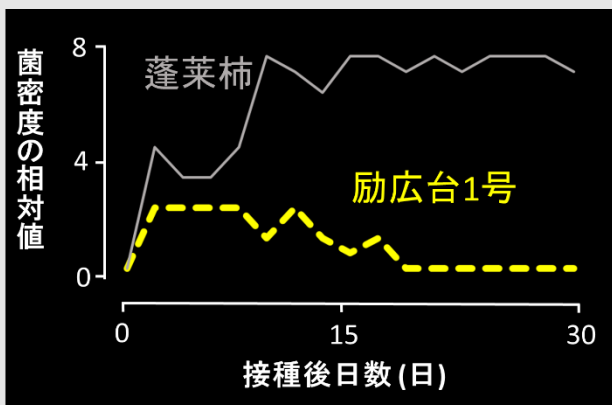
イチジク株枯病抵抗性台木「励広台1号」は樹体内の株枯病菌の増殖を低く抑え、枯死しないことが分かりました。

抵抗性メカニズム解明に向けた取組

- ・「励広台1号」の株枯病菌(以降, 本菌)に対する抵抗性の仕組みは不明。
- ・定量PCRにより, 本菌を接種した「励広台1号」と栽培品種「蓬莱柿」の菌密度を測定。
- ・加えて, 本菌を接種をした苗木の枯死率を調査。



菌密度と枯死率の推移



本菌接種後, 「蓬莱柿」は樹体内菌密度は大きく上昇。
一方, 「励広台1号」は菌密度の上昇を抑制。

白上ら(2022)日植病報88:91-97を改変。



「蓬莱柿」は接種後2週間程度で枯死。
一方, 「励広台1号」は全て健全。

今後の展望

「励広台1号」に接ぎ木した「蓬莱柿」苗を用いて同様の実験を行い, 接ぎ木苗に関する株枯病抵抗性も確認する予定です。

*本研究は生研支援センター「イノベーション創出強化研究推進事業」(JPJ007097)の支援を受けて行った。